

日本計量生物学会

ニュース・レター No.59

1997年4月

目次

巻頭言

1997年度日本計量生物学会・応用統計学会合同
年次大会のおしらせ

1997年度日本計量生物学会総会開催のおしらせ
関連学会等のおしらせ

日本学術会議関係報告

1996年度第5回理事会議事録

1997年度第1回理事会議事録

編集理事からのおしらせ

会計理事からのおしらせ

事務局からのおしらせ

鵜飼保雄（東京大学農学生命科学研究科）
ユーザーを無視できないというのが統計学の宿命であろうか。とくに生物統計学などと形容詞が冠せられる分野では。これが物理学とか遺伝学とかであれば、門外の人がわからなければわからないでもいいという態度も成立つかのかもしれない。しかし統計学はどんなにその理論が精緻に発達しても、どこかで現実問題解決の道具としての役割が要求される。

その際統計学者が出てきて解決策を示す場合と、実験者が統計手法を自ら使って解決しなければならない場合とがある。実際には後者のケースが圧倒的に多い。統計学関係の参考書には、統計学専攻の学生を対象とするものの他に一般ユーザー向けが必要となるゆえんである。そこでユーザー向けの和文の統計学参考書について、利用者の一人として偏見をも顧みず敢えて改善希望の点を挙げてみたい。1) 啓蒙書としての性格を意識しているためか、引用文献が本文内容に比べて少い傾向がある。内容に興味をもったときに、さらに深く追求してみたいと思っても先へ進めない。また本文中にその手法の提案者や開拓者の名がほとんど出てこないの、手法間の歴史的つながりが理解できない。2) すべての

巻頭言

手法がすでに確立されていて解決ずみのような印象を与える。人間の思考も個体発生は系統発生を繰返すので、論争点についてもっと書くべきではないか。例えば自由度とはなにかという点もPearsonやFisherなどの碩学が論争したほどの問題なのだということが触れてあれば読者も急には理解できずとも安心するのではないであろうか。3) 初学者が記載された数式をたどって無理なく理解できるようには書いてない。多分に飛躍や省略があるので、読者にいたずらな思考時間ないしあきらめを要求する。これらの原因の多くは著者にあるというよりは、日本の出版事情にある。たとえ統計学関連の参考書でも数式が多いと売れない、単価が高いと売れないという事情の下では、上のような注文をしても無理というものであろう。そこで解決策として電子出版を考えてはどうであろうか。CD-ROM 1枚に数万頁以上も書き込めるので紙上印刷のように頁数制限は全くない。常にup-to-dateな改訂もできる。さらに読者が本分中の引用箇所をクリックすれば直ちに関連する文献が検索できたり、本文中に埋め込まれたテストデータとプログラムによってデータ解析の実際に触れたりできれば、統計学と統計手法の理解にとって画期的ではないであろうか。

1997年度日本計量生物学会・応用統計学会合同年次大会のおしらせ

1. 日 時：1997年4月24日（木）、25日（金）
2. 場 所：東京大学農学生命科学研究科1号館
第8講義室

特別講演Ⅰ 24日 10:55～11:55
光森達博 鐘紡
応用統計におけるインターネットの活用

特別セッション 24日 13:00～15:00
テーマ：薬理試験データの計画と解析
オーガナイザー：魚井 徹 山之内製薬
大森 崇・吉村 功 東京理科大学
事例に則した薬理試験のデータ解析法の検討
浦狩保則 塩野義製薬
薬理試験で得られる経時反復測定データに基づく用量反応関係解析
山崎直樹 武田薬品
薬効薬理試験のデータ解析における問題点について

特別講演Ⅱ 25日 10:55～11:55
柴田義貞 放射線影響研究所
閉却されたフィッシャーの遺産－有意性検定・推測確率－

1997年度日本計量生物学会総会開催のおしらせ

大会2日目の4月25日（金）11:55～12:25に、1997年度日本計量生物学会総会を開催いたします。会員の皆様のご参加をお願いいたします。なお、総会へのご参加ができない場合には、委任状を提出して下さい。

関連学会等のおしらせ（1997年4月—1998年12月）

- ・1997年4月17日 東京・鹿島KIビル
日本工学会主催「学協会共通問題討論会」

連絡先：日本工学会 FAX 03 (3403) 1738
電話 03 (3475) 4621

- ・1997年6月2日－6日 Hohhot, China
International Symposium on Theoretical Biophysics and Biomathematics

連絡先：FAX 86-0471-4951761
e-mail imu@gus.buptnet.edu.cn

- ・1997年6月22日－7月3日 Seattle, USA
Joint Summer Research Conferences in Mathematical Sciences

連絡先：phone 1 401-455-4142
e-mail rgc@ams.org

- ・1997年6月30日－7月3日 Alicante, Spain
First Congress on Mathematical Models and Methods Applied to Biology and Medicine

連絡先：phone 34 65 22 99 40
FAX 34 65 22 99 46
e-mail esoc@lc.es

- ・1997年7月22日－25日 大阪大学コンベンションセンター
日本統計学会第65回大会

連絡先：日本統計学会FAX 03 (3442) 5924

- ・1997年8月28日－29日 国連大学
DIA生物統計学第4回年会

連絡先：DIA年会事務局
電話03 (3531) 8558

- ・1997年10月3日－4日 富士研修センター
計量生物セミナー

連絡先：計量生物学会事務局
FAX 03 (3446) 1695

- ・1997年10月25日 横浜市東戸塚第一生命研修センター

第20回薬効評価研究会

連絡先：薬効評価研究会事務局
電話03 (3531) 9111

- ・1997年11月7日－8日 東京大学安田講堂
薬剤疫学研究会第3回大会

連絡先：薬剤疫学研究会事務局
電話&FAX 03 (5802) 8603

- ・1998年8月24日－28日 Bristol, UK
COMPSTAT '98

連絡先：FAX 44 1582 760981
e-mail compstat-98@bristol.ac.uk

- ・1998年9月7日－11日 Glasgow, UK

The 1998 Royal Statistical Society Conference
(RSS98)

連絡先：FAX 44 (0) 141 552 2079

e-mail rss98@stam.strath.ac.uk

その他、掲載すべき関連学会・会議・セミナー
などございましたら、編集委員までお知らせ下さい。

日本学術会議関係報告

1. 連合部会、第4部会（1996年12月9日、1997
年2月14日）

1) 研連の見直しについての討議

2) 研連の見直しに関連して、研連のもとに専門
委員会を置き、研連と似た権限を持たせる（委員
定数や予算は研連わくのものをを用いる）案につ
いての討議

3) 「計算機科学研究の推進について」の勧告
案および「学術団体の支援について」の要望案に
ついての討議

4) 平成9年度国際会議代表派遣実施計画、平
成11年度共同主催国際会議についての検討

5) その他

2. 統計学研究連絡委員会（1996年12月2日）

1) ISIに対する日本側窓口の総務庁統計局よ
り、アカデミックな面での対応について協力して
ほしい旨の依頼があり、検討の結果、本研連が経
済統計学研連および関連学会にも本研連への協力
をお願いして、統計局に協力する体制を試行して
みることにした。

2) 統計関連学会の共同事業についての検討

3) 第16期活動のまとめ（案）の検討

藤井光昭（日本学術会議第4部会員）

1996年度第5回理事会議事要旨

日 時：1996年12月10日（火）16：50～17：40

場 所：統計数理研究所 特別会議室

出席者：駒澤（会長）、高木（庶務）、魚井（会計）、
上坂、鵜飼、大橋、奥野、佐久間、佐藤
（喬）、正法地、丹後、吉村（以上、理事）、
栗原（事務局）

議事次第：

1. 前回議事録の確認

議案通り承認された。

2. 1997、98年度役員選挙の結果報告

選挙管理委員が欠席のため、駒澤会長が役員選
挙報告書を代読した。選挙権をもつ会員352名中
有効投票数63、無効投票数2、理事186票、監事
57票の投票総数であった。この結果、理事15名、
監事2名を当選としたとの報告であった。

3. 第4回計量生物セミナーの報告

・出席者は臨床の部52名、生物の部30名であった。
セミナーの告示が遅れたため出席者数は前回を下
回ったが、内容的には充実したセミナーであった。
・収入1,710,000円、支出1,386,475円であり、
323,525円の黒字であった。ただし、今回のプロ
シーディングを作成するために、支出する予定で
ある。

・雑誌に掲載するのならば、参加者だけがその経
費を負担するのはおかしいとの意見があった。ま
た、途上国援助への拠出などが可能かなど、今後
検討すべき問題があげられた。

4. 次期理事会への引継ぎ事項

・日本学術会議第17期会員の候補者、推薦人、お
よび推薦人予備者の届出が来年2月中旬にあるの
で、新理事会で早急に選定が必要である。

・次号のニュース・レターのために、理事会議事
録、役員選挙結果報告、新会長の巻頭言が12月20
日まで必要。

・次年度の年会の特別セッションの内容を早急に
決める必要がある。

・学会誌への投稿論文4編のうち、1拒否、2審
査中、1大幅修正中である。

第3回計量生物セミナーのプロシーディングを
現在作成中である。

5. その他

計量生物セミナーの世話人を理事から選ぶべき
である。

高木廣文 1995-96年度庶務担当理事

1997年度第1回理事会議事要旨

日 時：1996年12月25日 17：10-19：00

場 所：統計数理研究所

出席者：上坂、鵜飼、岸野、佐藤（喬）、佐藤

(俊), 高木, 椿, 橋本, 吉村 各理事
栗原 事務局

1. 前回議事録の確認

前回議事録が承認された。

2. 三役の選出

会長に吉村理事, 庶務に佐藤(俊)理事, 会計に佐藤(喬)理事が推薦され, 承認された。

3. 推薦理事の辞退

当選理事による連絡会議で理事として推薦された竹網正典氏から, 理事を辞退したい旨申し入れがあり, 特別な事情であることからこれを受諾した。

4. 理事役割分担

欠席した理事の意見を聞いて, 最終的な調整を行う。

会長	吉村
庶務	佐藤(俊)
会計	佐藤(喬)
広報	林 橋本
編集	上坂 二宮
企画	
年会	岩崎 鵜飼 魚井
セミナー(生物)	岸野 三中
セミナー(臨床)	大橋
国際	丹後 柳川
渉外	駒澤 高木
学術会議(統研連)	大瀧
関連学会懇談会	椿

5. 1997年度合同年次大会について

1997年4月24日(木), 25日(金)に東京大学農学部で開催する。

演題申込み締め切りは2月21日(金), 抄録締め切りは3月21日(金)。

年会の特別セッションは, 「薬理試験データの計画と解析」というテーマで魚井理事にオーガナイザーを依頼することとした。

6. 学術会議会員および推薦人の選出について

学術会議会員の候補として柳川理事, 推薦人の

候補として駒澤理事(推薦人予備者として高木理事)を選出した。

7. その他

椿理事より, 関連学会懇談会の報告があり, 事務局設置の問題と共通名簿に関してワーキンググループが設けられる旨説明があった。

非会員から, 学会誌計量生物学 Vol. 17増補を購入したいとの申し入れがあり, これまで学会誌の頒布価格を決めていなかったが, 印刷費用等実費から1部2,000円とすることにした。

今回は, 1997年3月13日(木) 6時半から開催する。(場所は未定)

佐藤俊哉 庶務担当理事

編集理事からのお知らせ

本学会雑誌であるJapanese Journal of Biometricsへ, 会員からの積極的な投稿を期待しています。投稿原稿は, 会員相互間の交流の場としても活発に利用されるように, 以下の5種類が設けてあります。

1) 原著(Original Articles)

計量生物学(Biometrics)分野での諸問題を扱う上で創意工夫をこらし, 理論上もしくは応用上価値ある内容を含むもの。

2) 総説(Review)

あるテーマについて過去から最近までの研究状況を解説し, その現状, 将来への課題, 展望についてまとめたもの。

3) 研究速報(Preliminary Reports)

原著ほど, まとまっていないが, あるいは, 独創性がはっきりしないが, なんらかの創意工夫がこらされているもの。また, 年会で発表された論文(招待講演, 一般講演とも)で, 原著として投稿するほどまとまっていないもの。

4) コンサルタント・フォーラム(Consultant's Forum)

会員が現実に直面している具体的問題の解決法などに関する質問。また新しい方法論を開発した会員がその適用場面を模索する。編集委員会はそれを受けて, 適切な解答例を提示, または, 討論を行う。なお, 質問者(著者)名は掲載時には匿名も可とする。

5) 読者の声 (Letters to the Editor)

雑誌に掲載された記事などに関する質問、
反論、意見。

上坂浩之 編集担当理事

会計理事からのお知らせ

1997年度の会費の納入をお願いいたします。本学会の会計年度は国際計量生物学会の会計年度に合わせて1～12月です。B会員およびC会員で、会費を1年間未納にした会員は規定に従い雑誌Biometricsが届かなくなります。本学会の運営を健全にするためにも、これまでに会費を未納にしている会員は、本年分と合わせ至急会費をご納入下さるようお願いいたします。1997年度より会費が変わっております。ご注意下さい。

開発途上国援助のための「特別会費」は、会費に2,000円上乗せをお願いします。なお、特別会費を送金される場合にも通常の会費納入口座を利用し、特別会費であることを通信欄に明記して下さい。詳しくは、ニュース・レターNo.48巻頭言をご覧ください。

会 費	1997年度	1998年度
A会員	4,000円	4,000円
B会員	10,000円	10,000円
C会員	5,000円	5,000円
特別会費*	2,000円	2,000円

特別会費はA、B、C会員会費に2,000円を上乗せして下さい。

A会員：Biometricsを購読しない正会員

B会員：Biometricsを購読する正会員

C会員：学生会員（Biometricsを購読する）

郵便振替口座：

00150-2-22365 日本計量生物学会

銀行振込口座：

第一勧業銀行 飯田橋支店

普通 061-1499027

日本計量生物学会

または、

三和銀行 飯田橋支店

普通 624-3596166

日本計量生物学会

佐藤喬俊 会計担当理事

事務局からのお知らせ

銀行振込で会費を納入していただく場合、機関名が長いと会員名が切れてしまい、どなたからのお振り込みが、事務局では分からなくなることがあります。銀行振込の際には、必ず会員名を先頭にして下さい。

学会への連絡、問い合わせ等は手紙またはFAXで下記事務局までお願いします。また、所属、連絡先等に変更のあった会員の方は、事務局までご一報下さい。

ニュース・レター編集委員会から

今回のニュース・レターから担当が変わりました。今まで、担当されていた統計数理研究所佐藤俊哉先生、長い間ご苦勞様でした。それにともない、合言葉は「ノース・カロライナの青い空」から「ボストンの暗い空」に変わります。今後も会員の皆さんに役に立つ情報を、多く掲載したいと思います。そのため、何か掲載すべき「ニュース」がありましたら、下記連絡先までどしどしお送り下さい。

日本計量生物学会事務局

〒106 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所駒澤研究室内

FAX 03 (3446) 1695

栗原恵美子

編集委員会 林 邦彦、橋本修二

〒371 群馬県前橋市昭和町3-39-15

群馬大学医学部保健学科医療基礎学

林邦彦

FAX 027 (220) 8999

e-mail khayashi@news.sb.gunma-u.ac.jp